

道民森づくり ネットワークの集い ～ポスターセッションに参加しました～

2月27日（日）に札幌のかでる2・7ホールで「道民森づくりネットワークの集い」が開催され、ワークショップ、パネルディスカッション、ポスターセッションなどが行われました。森林センターではポスターセッションに参加し、日々の調査活動や知床の森林生態系について手作りのポスターを掲示し説明しました。当日はたくさんのお客さんが訪れ、北海道民の皆さんの森林に対する関心の高さが伺えました。



=ポスターで紹介した内容=

○エゾシカのイチイ樹皮食害について

斜里町ウトロ地区国有林におけるエゾシカのイチイ食害状況について、調査結果を掲示しました。平成16年にはイチイ全個体の約9割が食害を受けている事実と、幹の全周に食害を被ると樹木が枯死する現状に関心を寄せたお客様が多く、山から木が無くなってしまおうのではないかとこの声も聞かれました。業務やイベントを通じて地域の小学生と食害防除用の網を巻く取り組みについても伝えました。



多くのお客さんが訪れました

○知床の森林へようこそ

「知床の森林帯の垂直分布と主な樹木の紹介」では、垂直分布のような専門的な内容よりも綺麗な樹木の写真に興味を寄せられていたお客様が多かったようです。

「知床自然観察教育林と羅臼湖の紹介」では、美しい風景や高山植物の写真を見てどのように行けばいいのかという質問や、イベントへ参加してみたいというご意見をいただきました。

ポスターセッションを通じ、一般市民と意見交換をはかり、またNPOや他組織の活動について知ることができたことは、センターの活動を知ってもらえる良い機会であり、これからの業務をすすめる上で良い参考になりました。



こんなポスターを掲示しました

ポスターの内容を解説しています

ドングリの結実の豊作と凶作の周期性に関心をいただき、これからは長期間調査を続けていくといいのではという御意見も頂きました。ゾウムシは長い口を軸にしてくると回りながらドングリに穴をあけ産卵するので、その中にゾウムシの仲間の幼虫が

○ドングリの結実調査について

っているものが多いことに興味を示す方もいました。

知床の森から

平成17年3月発行 第94号



北海道森林管理局 知床森林センター

〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地

電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



(写真：フレベのエゾシカ)

知床は今

お彼岸が近づくと毎日の日差しが強くなり、春が例年より早く訪れそうな気配を感じます。今年の冬は例年に比べ暖かく、積雪も少なかったようです。今年の流氷接岸は遅く、1月下旬にきました。流氷は風の方向によって岸に寄ったり、離れたりを繰り返して、様々な風景を眺めることができ、その上ではオジロワシやオオワシの姿を見ることができます。

「フレベの滝」周辺では、20～30頭の親子づれのエゾシカの群れが雪に埋もれたササなどを掘り出し食べている姿を見ることができ、観光客が写真を撮っている姿を見ます。周辺の森林に入ると木の皮を食べているエゾシカの姿も見られますが、木の皮が食べられると、木は枯れ森林生態系にとって深刻な問題となっています。

知床八景の一つ『オシンコシンの滝』の水は、今年も凍らずに流れ落ちています。厳寒期には人通りの少なかったウトロの町も、流氷が来てから観光バスが多くなり、町内は車や人で賑わっています。



オホーツク海を埋めつくす流氷

第72回森林レクリエーション・in知床

『フレペの滝周辺の森を歩くスキーで散策』を開催

～冬の世界自然遺産候補地を堪能しました～

第72回森林レクリエーション・in知床「フレペの滝周辺の森を歩くスキーで散策」を、3月3日（木）に開催しました。

北見市、網走市と斜里町から19名の参加があり、移動するバスの車窓から、接岸した流氷が広い海を埋めた広大な景色を見ながら現地へ向かいました。

コースはウトロにあるフレペの滝周辺の二次林や原始的な針広混交林の中で、断崖絶壁に接岸した流氷を眼下に見ながら歩くスキーで往復約3.5kmの自然散策をしました。

コースの途中では、流氷が海に恵みをもたらすこと、森林が温暖化を防止する働き、シカが餌不足のため樹皮を食べて木が枯れ深刻な問題になっていることなどの説明があり、参加者の方々はインストラクターの解説に耳を傾けていました。



知床の森を歩く参加者のみなさん

林内ではエゾシカの足跡が縦横に見られ、エゾシカが目の前を悠々と歩きキハダなどの皮を食べる姿を見ることができました。またトドマツについたヒグマの爪痕やエゾモモンガが食べ散らかしたトドマツの葉などを見つけ、この樹洞に住んでいるのでは、などと穴をのぞき込んでいました。

夜間に降った真新しい雪を被った知床の原始的な森林の中に身を置き、雄大な自然に触れ、清々しい汗を流して充実した一時を過ごしていただけたことと思います。



フレペの滝で記念写真を撮りました

育種場の半田さんを招き「イチイの実生更新と遺伝資源の保全」の報告会を開催しました

1月27日（木）に北海道育種場の半田育種課長を招いて、「イチイの実生更新と遺伝資源の保全」をテーマにした報告会を開催しました。イチイ林木遺伝資源保存林内の調査地では、シカの食害によりイチイの低木が見られず、実生もまれにしか観察されないため、更新に不安があることなどを約1時間半ご報告いただきました。



講師の半田さん

第56回森とのふれあい

「歩くスキーで大栄の森を探検」を開催

～地元の小学生と海岸林を探検～

第56回森とのふれあいを斜里町立知床博物館（中川 元館長）の『知床海と森の学校』と共同開催で2月19日（土）に行いました。

参加者は『知床海と森の学校』のメンバーの中の10名（男子6名、女子4名）で、斜里町内の小学校4年～6年生です。インフルエンザが流行っているため、当初予定の約半数の出席となりました。

今回の目的地である「大栄の海岸林」は、斜里町の西端で小清水町との境にあり、サロマ湖、能取湖、網走湖周辺と共に網走国定公園に指定されています。

当日は朝から快晴で、9時過ぎに現地に着くと、準備体操で体をほぐした後、早速歩くスキーをき林内へ入りました。

アカエゾマツなどの林に入ると、廻りに植えてあるトドマツ、アカエゾマツの特徴や、この林は塩害から畑の作物などを守ってくれる「潮害防備保安林」に指定されていることを学びました。海岸線付近の高台まで進むと、オホーツク海に広がる流氷を見ることができました。流氷は風向きにより沖合に遠ざかったり、海水面が出たりするので、地元の子供でも海一面の真っ白な流氷を見る機会は少なく、一同感激していました。



流氷を背景に記念写真を撮りました

先に進むと、茶色の葉をつけたままのカシワ林になりました。カシワの葉が枝に長くついている理由を教えてもらおうと、尊敬のまなざしでカシワを見上げていました。更に先に進むと平原に出ました。そこからは、遠くに知床連山や知床岳、更に知床岬の先端部分まではっきりと見ることができました。また足元に目をやると、今年は雪が少ないので、ハマナスが顔を出していました。ハマナスにはハエの仲間の幼虫が入った虫えい（虫こぶ）が多数ついていました。歩くスキーについては、ほとんどの子が学校の授業などで経験済みで、上手に操っており、あっという間に、2時間の探検を終えました。



樹木の説明を聞いています

阿寒国立公園に関する学習会

2月15日（火）に環境省川湯自然保護官事務所の小島明朗自然保護官を講師に招き、センターの職場内学習会を開催しました。

阿寒国立公園に関する法的規制、入り込み者数の状況、野生動物種の生息状況、エゾシカの食害問題、主要利用拠点の活性化、知床国定公園との相違点、自然と触れ合うための施設についての貴重な情報を2時間ほど説明していただきました。



講師の小島さん